

# “森林の国”が認めた 静岡の木工機械

静岡市内の老舗木材加工機械メーカーの丸仲鉄工所(望月清史社長)の木工機械がカナダの伝統校ラバル大学の木質科学部に導入された。静岡で培った技術が四年前にドイツ・ハノーバーで開かれた木工機械の国際見本市で、“森林の国”の大学教授の目にとまったのがきっかけだった。



丸仲鉄工所の木工機械を見つめる学生ら  
—カナダ・ラバル大

## カナダの大学 導入

同社はげたや茶箱を製造する機械の生産で一九三四年に創業し、一九四八年に会社を設立した。同社の木工機械を導入したのはヘルナンデス教授。レッドオークやシユガーマープルなどを研究対象とし、機械加工による木材表面の品質、表面への塗料や接着剤の有効性などを研究している。ヘルナンデス教授が国際見本市を訪ねたところ、ラバル大では木質科学部の校舎と研究棟を新設する計画があった。見本市後の二〇〇二年にヘルナンデス教授のスタッフから、校舎などの新設に伴って新しい設備を導入するため同社の木工機械を詳しく説明してほしいと連絡してきたという。

## 「技術評価、うれしい」 老舗メーカー

木工機械は木材を木目(望月社長)で、木の持つ美しさを細やかに引き出すことができる。今年九月に二機の据え付けと運転指導のためにラバル大を訪れた望月社長はヘルナンデス教授や学生から「これからの研究に役立てたいと感謝される」といい、「長年の技術が認められ、木工機械メーカーとして大変うれい」と話している。ラバル大はカナダで最古、世界的にも古い歴史を誇るフランス語系総合大学。学生は二万人を超える。